大型転造ボルト・ナット製造

ハマックスの事業展開

特殊品強み、技術の幅広げる

濱田 康平専務に聞く

ハマックス（濱田隆平社長）は、兵庫県姫路市に本社を置く大型転造ボルト・ナットメーカー。高強度の特殊ボルト、大型転造ねじに強みを持ち、重工・造船・プラントメーカー向けを中心に実績を持つ。このほど建築用アンカーボルトメーカー協議会に加入し、規格品のボルトニーズにも対応する態勢を強化する。現地で指揮を執る濱田康平専務に、会社の特色と事業展開について聞いた。

――事業の特色は。

「メーンは重工、造船、プラント向けの特殊ねじの製造。国内に6工場、海外では米テキサスに1工場があり、それぞれ得意とする製品を中心に生産している。例えば本社の姫路工場は大型の転造ねじ、光都工場（兵庫県たつの市）は自動車の量産部品、長崎工場（長崎市）は熱間鍛造や製缶の製品を製造している」

「九州工場（佐世保市）は精密加工に特徴があり、大阪工場はパイプのねじ切りやトンネルや地盤改良など土木向けのねじを加工。テキサス工場は風力発電向けの製品がメーン。特に大型船舶用ディーゼルエンジンに使用される転造ボルトでは、国内シェアの80％を占め、転造加工技術と研究開発、効率的な製造プロセスを強みとしている」

――建築用アンカーボルトメーカー協議会に新規加入した。

「これまで特殊ねじを中心としてきたが、近年は既存の納入先からの、JIS規格製品に対するニーズが高くなっている。例えばプラント用のアンカーボルトなどであり、当社が培ってきた技術を生かし、また新たな出会いを通じて勉強させていただきたい、との考えから加入させていただいた。ユーザーや鉄鋼・金属メーカーではなく、同じ業界の方との公式な接点ができるのは初めてと思う」

――会社の歴史と概要を。

「発祥は長崎。1931年創業の濱田屋商店（本社＝長崎市、濱田隆平社長）から、製造部門が分社独立する形で96年に設立した。姫路工場は、主要納入先の造船メーカーからいずれも2時間以内という立地を考えて、この地に建設した。ボルトの転造加工で最大径M300まで対応、長尺シャフトの切削加工のほか、大型5面加工、3次元レーザー加工、特殊熱間鍛造加工も行っている」

「材料は軟鋼から炭素鋼、合金鋼、ステンレス鋼、超合金鋼まで力バーし、それぞれの材料メーカーとも密接な協力関係を築き、お付き合いさせてもらっている。現在では炭素鋼はM270、合金鋼はM180、ステンレスはM125、インコネルなど超合金鋼でもM100までの超大型転造ねじ製造に対応できるようになっている」

――最近は技術開発にも注力している。

「もともと大型の転造ねじ加工技術を強みとしているが、海外のねじメーカーに負けないためにも、世界に技術発信できる企業を目指している。例えば熱処理後の大型転造ねじ加工には高い技術力が必要。未知の部分も多い塑性加工プロセスや、ねじ加工の影響を調べるために、自社でFEM（有限要素法）解析や疲労破壊、内部組織などの分析・試験装置を保有している。転造油やダイスも最良のものが必要。最初は『なぜ振動を繰り返すとボルトは折れるのか』、『ボルトが折れないためにはどうすればいいのか』という疑問から研究開発を始め、大学や専門機関との共同研究にも取り組んでいる」

――事業展開の中で重視していることは。

「技術力を高めると同時に、自動化や省力化に挑戦し、世界を意識したモノづくりを進めること。そして、モノづくりだけでなく新しい仕組みづくり、新しいビジネスモデルとして仕事をとらえるように心掛けている。ロケットプロジェクトと呼んでいるが、思いやビジネスモデルを打ち上げて、チャンスが来たら一気に立ち上げる。そしてまた次の企画を打ち上げる。それが自分の役目の一つでもある」

「もう一つは経営理念にある基本の考え方と、それを支える人の育成。経営理念に込められた考えとして、まず人との出会いに感謝する謙虚さ、そして人間力、技術力を発揮して、社会貢献を通じて成長する喜びへとつなげていく。若い人も多く、常に新しい技術やコトに挑戦する発想力、企画力が求められる。経営理念と教育がベースにあってこその事業展開と考えている」（戸次　達也）